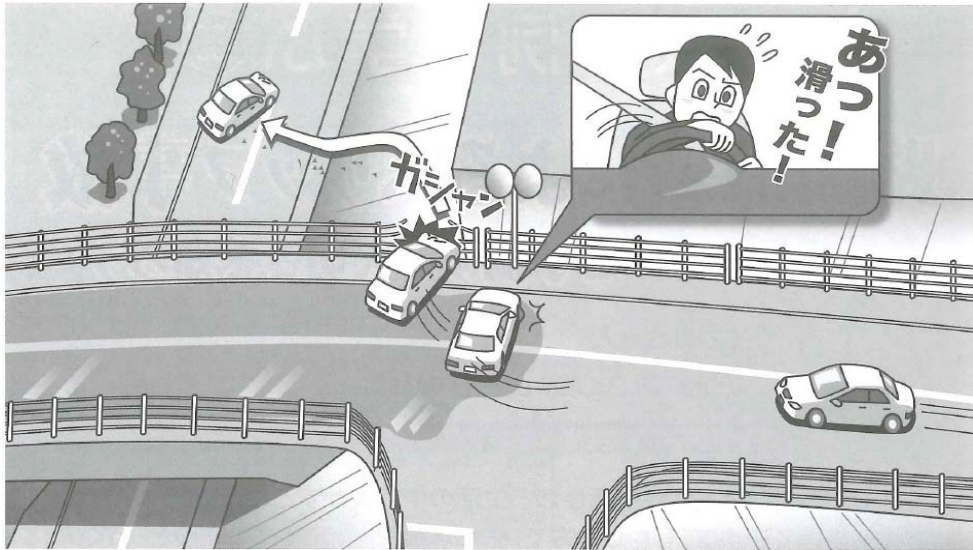


■事故の概況

人と車参照



事故類型：単独事故

発生日時：2月 早朝 霧

当事者A：普通乗用車 30歳代 男性

■ 事故の概要

Aは出勤のため通い慣れた道を走っていました。しばらく走った所で他の道路と立体交差している橋梁を上りはじめました。その時、突然車のコントロールを失い、対向車線にはみ出したと思ったら反対側に設置されたガードパイプを突き破り、8m下の道路に落下しました。Aは少し寒かった気がしたが、路面が凍るほど寒いとは感じず、まさか凍結しているとは思わなかったと話しています。

■ 事故から学ぶ

この事例は、冬場、橋梁の路面が凍結した所でタイヤがスリップしてコントロールを失い落下した事故です。一般的に、高架構造の橋梁上の路面は、地熱などが無いため、ほかの路面に比べ凍結しやすいと言われています。そのことを知っていて、より慎重な運転を心掛けていれば今回の事故は起きなかったかもしれません。危険を予測することは、事故を起こさない有効な手段になります。しかし予測するには、ある程度の情報や知識が必要です。日頃から交通事故のニュースや情報などに興味を持ち、なぜ危険なのか、どう対処すべきかを考える習慣を身につけることが、危険予測に役立つものと思います。